



「協同労働の協同組合」 ワーカーズコープを、「共に」 地域で

ワーカーズコープは、働く者・市民がみんなで出資し、経営に参加しながら協同で仕事をおこし、「よい仕事」に高め、働く者「一人ひとりの成長と発達」を追求する一この「協同労働の協同組合」という考えに到達するまでに、前史的な取り組みを含めて40年近い歴史を要しました（日本労働者協同組合連合会、2019年で40周年、就労者1万5,000人、事業規模350億円）。

40年の歴史を踏まえ、私たちはこの協同労働を「共に生き、共に働く社会をめざして、市民が協同・連帯して、人と地域に必要な仕事をおこし、よい仕事をし、地域社会の主体者になる働き方」（2015年改定原則）、「人たるに値する生活と調和した労働条件を働く者が協同で決定する働き方」（法制度設計）と位置付け、この働き方を保障し推進する協同組合・ワーカーズコープが法制化される時代（社会の制度となる段階）を迎えています。

1970年代、戦後の失業対策事業廃止の後処理的な公園清掃や草刈など行政の特別な配慮による仕事中心の前史から始まった私たちの運動・事業は、1980年代半ばにワーカーズコープへの転換を図る中で、「生活と地域」を焦点にその取り組みを広げてきました。「協同組合間協同」による民間ベースでの病院清掃や建物総合管理、2000年の介護保険制度を焦点にしたヘルパー養成講座から地域福祉事業所の立ち上げ、2003年の指定管理者制度を焦点に「新しい公共」を市民と共に担う子育て事業やコミュニティ施設の管理運営、2011年東日本大震災を契機にF（食）E（エネルギー）C（ケア）の自給循環するコミュニティ経済の創造を掲げて自伐型林業や農業など地域循環型事業（第一次産業）に挑戦。そして2015年に開始された生活困窮者自立支援制度を社会の焦点にすべく、社会的困難にある人と共に働く職場づくり、孤立・排除しない地域づくりに取り組んできました。

私たちがこの40年の歴史の中で獲得してきた最大の成果は、協同労働を通じた人間の関係性の深まりを手にしてきたことです。いのちの根源である自然と社会に向き合うよい仕事を深める中で、その人丸ごと、暮らしと地域丸ごとを受け止めるよい仕事観、ケア観を獲得。また、社会的困難にある人と「共に働く」格闘の中で、職場の包摂力を高め、また地域の人びとと共に居場所づくりや小さな仕事おこしに取り組む中で、仲間の主体性や挑戦への意欲を高めてきました。そして今、法制化時代を迎え、協同労働の担い手が私たち組合員から市民全体のものへと広がる中で「協同総合福祉拠点」（みんなのおうち）構想を提起しました。利用者、地域住民、組合員と共に、そのちがいを認め合い、互いの力を生かし合う、いのちの本質に沿った関係性を築きながらその立ち上げを進めています。

「協同」とは「心を合わせ、力を合わせ、助け合い、支え合って共に働く」（岩波国語辞典）とあります。私たちの仲間は、協同労働を「一人ひとりの願いをみんなの手で叶えることができる労働」、「排除しない、全ての人の居場所となる労働」などと表現し、地域に発信を開始しました。

孤立や排除を超えて一人ひとりの願いや思いが大切にされ、みんなの力で実現することができる社会、協同の関係により、かけがえのない仕事ができる社会、自然の中で共生の関係を育むことができる持続可能で豊かな地域を創りたい。私たちは、地域・市民と共に社会の一員、当事者として協同労働の運動・事業を進めていきたいと考えています。この取り組みを「共に」、ぜひ。